

【はじめに】

検査室を構成する検査技師は、検体部門2名、生理検査部門3名の計5名で運用している。技師の数は少ないが臨床からの要望は多く、限られたスペース・スタッフのなかで検体・生理検査ともに工夫しながら実施している。

検体検査部門

【検体検査室の取り組み】

検体検査では2名が担当している。この限られた人数で生化学、血液、血清、一般、輸血、細菌および病理検体を処理しているため技師の守備範囲は広い。

1. 検体検査のシステム化および多検体処理自動分析器の導入

みすみ病院の開設当初は検体検査全体の検査システム、多検体処理自動分析器がなく、緊急検査、普通検体ともに結果を出すまでに時間を要し、臨床に迷惑をかけた点が多々あった。5月の半ばに検査システムが導入され、多検体処理自動分析器も稼動したため、結果報告の短縮、多検体処理が可能となった。

2. 予約検査の採血管準備

検査システムの導入により前日、休日の検査に必要な採血管を準備し、各科・外来へ提供することができるようになった。導入によるメリットは看護師が準備する手間の削減、特殊採血管の選択ミス防止である。前日に準備することにより、朝の業務が集中する時間帯を分散できるメリットもある。

3. 細菌検査直接塗抹鏡検

細菌培養検査を院内で実施するにはコスト、スペース、スタッフ数の面で導入できなかった。しかし直接塗抹鏡検は臨床からの要望もあり、これを可能とするために熊本で研修し、報告ができるようになった。現在、抗酸菌の直接塗抹鏡検を検討中で、近々実施する予定である。

4. 糖尿病教室の講義、個人結果説明

開院当初、みすみで検体を自動分析器で測定してまず気づいたことは、血糖値が高い患者が多いこと、また極端にヘモグロビン値が高いことも目に付くことであった。検査データを集計し、院内の勉強会で報告した。糖尿病教室では患者への講義、個々の検査結果を患者に説明している。

5. 情報の提供（NST・高脂血症のリスト）

NSTに関連する検査データの抽出に加え、高脂血症の検査データを抽出して毎日報告書として各科へ配布している。これはNSTの活動及び、高脂血症治療の資料となっている。

6. 輸血のデッドストック防止管理

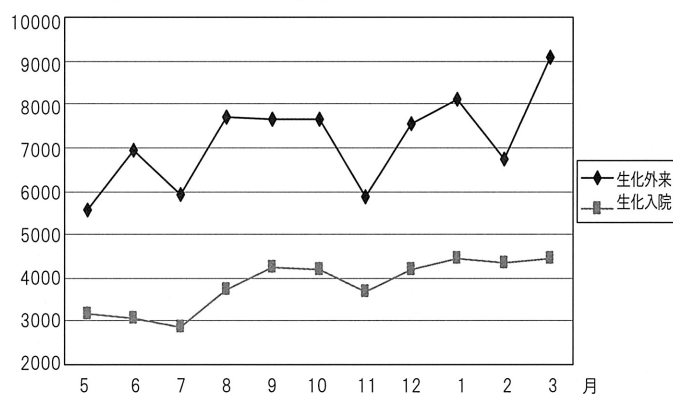
みすみ病院では輸血の利用頻度は少ないが、救急病院で

あるため常に輸血製剤を確保しておかなければならない。そこで問題になるのが輸血製剤の使用期限である。これを回避するために熊本病院の協力によりデッドストックを防止する事ができている。

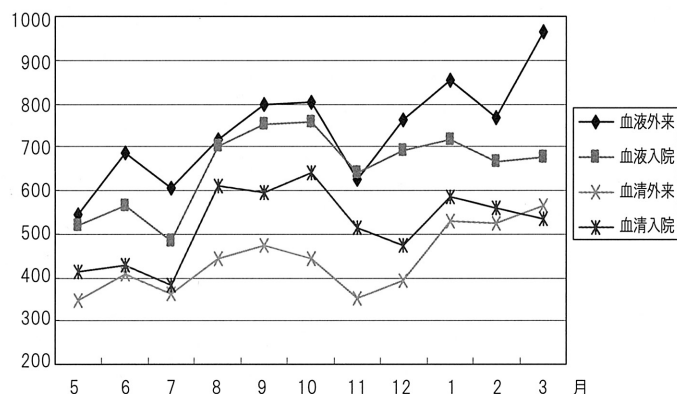
7. 細菌検査の週報、月報

細菌の培養結果について週報、月報をまとめ感染管理委員会では報告している。

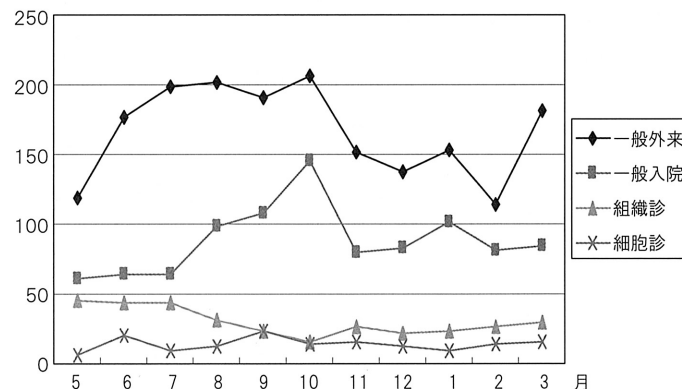
生化学入院外来別の項目数推移（2003年5月～2004年3月）



血液・血清入院外来別の項目数推移（2003年5月～2004年3月）



一般・病理入院外来別の項目数推移（2003年5月～2004年3月）



生理検査部門

【業務の立ち上げ】

2003年度は病院開院に伴う生理検査業務の立ち上げと、効率的な運営方法の確立が中心となった。

現在、生理検査には3人の技師を配置し、下記の検査項目を行っている。

- 心臓超音波検査
- 心臓負荷超音波検査
 - A T P 負荷
 - ドブタミン負荷
 - トレッドミル負荷
- 経食道超音波検査
- 腹部超音波検査
- 甲状腺超音波検査
- 乳腺超音波検査
- (その他の業務)
 - 乳腺A B Cの介助
 - 前立腺生検の介助
 - P E I Tの介助
- 下肢血管超音波検査
- 頸部血管超音波検査
- その他の超音波検査
- 心電図
- 肺機能
- 脳波
- 眼底写真
- トレッドミル
- ホルター心電図
- 甲状腺穿刺の介助
- 腎生検の介助
- 救急外来のエコー検査対応

【機器購入と確保】

検査機器がほとんど無い状態からの立ち上げであった為、機器の確保、選定、購入もより重要な業務の一つであった。心電計・トレッドミルは熊本病院の心電図のファイリング導入に伴い、不要になった機器を確保し整備を行い、みすみ病院では新たに購入することなく運用している。2台の超音波機器、脳波計、眼底カメラ、A B Iについては機器選定後、新規購入した。

【業務実績】

当生理検査室は超音波検査が業務の主体であり、2台の超音波検査機器により上記に示す超音波検査項目を行っている。特に心臓超音波検査と腹部超音波検査で、超音波検査全体の84%を占める。心臓超音波検査1,575件のうち負荷心エコー検査は106件と心臓超音波検査全体の6.6%であった。

また生理検査業務の70%が外来による検査で、腹部超音波検査に至っては80%が外来であった。

【時間外業務】

生理検査の技師が待機の時は、時間を問わず要望に応じて脳波から超音波検査まですべての生理検査項目の対応を行っている。

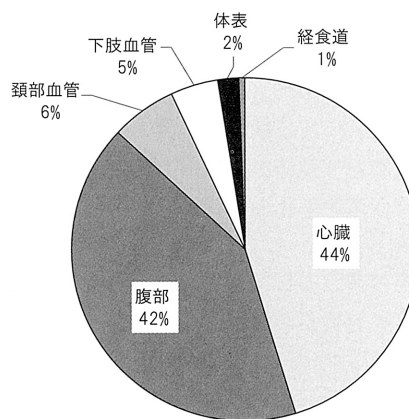
【資格取得】

今年度2名の技師が新たな領域（循環器領域、体表領域）の超音波検査士の資格を取得した。それにより現段階で、超音波検査士の資格取得者は、循環器領域資格取得者2名、消化器領域資格取得者3名、体表領域資格取得者1名となった。

【学術活動】

心エコー懇話会での発表、熊本病院での勉強会への参加・研修を始め、積極的な勉強会への参加を行っている。院内においては週1回、コメディカルや看護師を対象とした、庄野医師による心電図勉強用の資料（E-cub）の発行を始めた。また、来年度に向けて院外向けの心エコー勉強会（オレンジ勉強会）の準備を行っている。

超音波検査項目内訳



生理検査月別件数

